（別紙4-1）　　NPO法人　福祉サービス評価機構Kネット

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0171300072		
法人名	メリーライフ株式会社		
事業所名	グループホーム里の家大曲 あかしあ		
所在地	北海道北広島市大曲緑ヶ丘1丁目2番地2　TEL 011－377－8373		
自己評価作成日	平成30年12月10日	評価結果市町村受理日	平成31年2月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0171300072-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4　高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成31年1月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「グループホーム里の家大曲」は、バス停から5分程の住宅街に立地している。開設して18年目を迎えており、地域とは行事等で様々な交流が繰り広げられている。
昨年の震災時は、町内会長や家族が安否を確認に駆け付け、さらに住民や家族から発電機や投光器、ガソリン等の提供を得ている。また、職員同士の自然な助け合いがあり、難事を乗り越えられたことに、管理者は感謝の言葉を表している。
震災時の停電の中での誕生会は赤飯でお祝いをしており、職員の心意気が感じられる場面である。事業所は、利用者と家族が一緒に楽しめる行事を企画し、外出行事等で実践している。
昼食時は、あちらこちらから「美味しいねぇ」の言葉が聞かれ、笑顔の利用者と職員の姿を見ることができた。職員は、利用者一人ひとりに寄り添い要望を引き出し、穏やかな生活が継続できるよう、自己研鑽に努めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は4つあり、職員は理念を理解し実践につなげている。朝の申し送りで理念を確認している。また、毎月目標を立て意識しながら業務に取り組んでいる。	法人理念を事業所の基本理念とし、また、理念を踏まえた目標を毎月策定している。新人研修では理念の持つ意義を説明し、さらに申し送りなどで職員の意識統一に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し町内会行事に参加したり、運営推進会議やホームのお祭り、避難訓練に町内の方が参加してくださり交流を持っている。	保育園児が来訪しての歌や遊戯の披露、小学校の学習発表会見学は恒例の行事になっている。絵手紙や外出支援、将棋等のボランティアの受け入れ、「里の家祭り」には住民の参加があるなど、地域とは密な関係にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が中心となり近隣にある二つの小学校で体験学習を行ったり、地域の勉強会等で認知症の人の理解や支援方法を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの取り組みや報告を行いながら参加された方の意見、事故の改善策の提案などを伺いながら実際に取り組んだりしている。	会議は利用者を含む関係者の出席を得て2ヵ月毎に開かれ、事業所の現状を報告している。事故やヒヤリハットは原因から改善までを報告、昨年の震災時の被害状況やケアプラン等についての説明を行い、意見や要望、情報が得られている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が中心となり、市の担当者と連絡を取り合っている。会議等で市の動向も聞き取りしながら連携を図り、事業所の実情や取り組みを伝え協力関係を築いている。	行政とは主に管理者が関わっている。事故報告書等の提出時や困難事例等で担当窓口を訪れ、また、認定調査やケースワーカー来訪時には、情報を共有している。「北広島サービスネット」や「地域ケア会議」では各担当者の出席があり、研修会や情報交換が行われている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修や内部研修に参加し、身体拘束についての勉強を行っている。ホーム玄関は交通量の事情もあり念のため施錠しているが、身体拘束にあたるとの認識を持ちながら希望があれば都度対応している。身体拘束委員会の設置もしている。	身体拘束適正化委員会は運営推進会議時に開催し、指針の説明や身体拘束廃止への取り組みを報告している。職員は、内・外の研修等で正しい理解に努め、言葉かけなど適切なケアの実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部の研修や内部研修で学ぶ機会を持っている。虐待についての話し合いをしながら、虐待に近いグレーな部分も見過ごすことがないよう注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もいるので、成年後見制度について学ぶ機会を持っている。また、後見人との関わりを多く持つ事で知識を学べる環境でもあるので活用しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心となり不安や疑問は無いかを尋ね、理解・納得を図っている。また、可能な限りユニットリーダーも同席し、介護計画の説明を行いながら納得を得るよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等とは、何でも話して頂けるような雰囲気作りを行っている。運営推進会議では、アンケートを作り意見の反映に努めている。また、意見箱も設置されている。	利用者の近況は、家族来訪時や電話、メール、Fax、毎月の「里の家だより」で知らせている。職員は、利用者や家族から要望等を聞き取り、改善までの一連の過程は記録に残している。管理者は、家族から職員への労りの言葉を伝えられている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議等には可能な限り管理者が参加し職員の意見を聞き取りしている。職員は気兼ねなく意見や提案を伝えている。必要に応じ提案は反映されている。	管理者やリーダーは、業務上や個人面談等で職員の意見を傾聴している。職員からユニット合同で楽しみたいと提案があり、七夕祭り、食事会、女子会に加え、ユニット毎にカラオケ喫茶、洋食喫茶、和食喫茶を開催している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況は管理者が把握している。また職員が仕事に対しモチベーションが低下した場合は管理者だけでなくリーダーも間に入り職場環境やストレスなど課題克服に向けた取り組み意識を持っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に行く機会がある。また、会社でも内部研修を行い勉強の機会を作っている。また、ユニットリーダーは職員と個人面談を行いながら困っている事を訊いたり、ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北広島サービスネットに加入しており、研修に参加する機会を持っている。また、グループホーム部会もあり、相互交流を図っている。その時には同業者と交流を持つ事ができている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前後は特に不安や心配がないか話しを聞いたりし、関わりを多く持っている。まずは安心感を持っていただけるよう声掛けを多くし関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望や要望を伺っている。入居当初は特に細かく様子を伝えながら家族が困っている事や気になる事はないか等を伺い安心して頂けるような関係づくりに努めている、		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後に必要な支援の見極めを行なっている。職員間で共有できるよう記録や申し送りノートに記入しながら、必要な支援やサービスの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来事、能力を活かして頂けるような支援をしている。例えば現在裁縫が得意な方がいるので他者の着ている服のほつれを縫ってあげたり相互の助け合いの関係がある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を行事に誘い普段の様子を知って頂いたり、ユニットの雰囲気を感じて頂いたりしながら必要な協力を得ている。また、家族がボランティアを紹介してくれ入居者が楽しむ場の提供となったなど関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚の面会や友人の面会がある。可能な方は自宅へ帰ったりしている。また、旭川の兄弟宅に一週間ほど泊まりに行かれた方もおり、馴染みの関係は続いている環境となっている。	面会に訪れた方々を歓待し、居間や居室でゆっくり出来るよう配慮している。外食や遠出の外出は、家族の支援を得ている。馴染みの場所へは個別支援とし、以前の居宅を訪れたり、受診した医院への支払いに利用者を誘い、夜のドライブを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上で、食事席を決めている。共有ホールにいるときはお互い気に掛け合いながら、できないことや困っていること、悩んでいることを助け合ったり、励ましあったり良い関係性ができている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もお見舞いに行ったりしている。以前入居されていた方の様子を家族が葉書等で知らせてくれたり、行事に誘って頂けたりと関係が続いている方が今もいる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でやりたい事を聞いたりしながら生活の支援をしている。困難な場合は関わりを多く持ちながら本人の希望を探っている。	日々の生活の中で、利用者との会話や仕種、家族の情報から得た「好きな物を食べたい」「外出したい」等の要望は、行事で反映している。内容によっては、ケアプランに取り入れ満足に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や入居後の様子を記録や申し送りノートに記入し、職員間で共有しながら日々のケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方や体調の観察を行なっている。何か変化が見られた時には、記録に残しながら申し送りを行い、現状の把握に努めケアにあたっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の更新をしている。職員それぞれが日々のケアで感じている事を意見として出し合いながら、一人ひとりの「その人らしさ」とは何かを考えながらプランに反映している。	ケアプラン作成時は、利用者や家族の要望を関わりから把握しているが、家族には再度電話やライン等で確認している。職員は、3ヵ月毎に評価を行い、気づきや提案を組み入れ、利用者や家族の望む目標を設定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等は個別の記録に記入し、必要な情報は日誌に記載している。職員間での情報共有になっており、介護計画の見直し時にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りの対応は行なっている。柔軟な支援として、家族と一緒にお墓参りへ行ったり、本人の希望から定山渓へ家族も誘いドライブに行ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアとの交流や保育園、小学校の児童との世代間交流や地域交流を行いながら暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の希望によりかかりつけ医を継続したり、協力病院に変更しているが、その方の身体状況の応じて適切な医療を受けられるように支援している。	馴染みの外来受診は家族対応だが、職員が同行支援の時もある。殆どの利用者は、2週に1回の訪問協力医の診療を受けている。他に歯科や皮膚科の定期的な往診に加え、週1回看護師の訪問もある。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護の時に気になる事を伝えている。看護師より指示をもらいながら適切な受診を行ったり、往診時に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が中心となり病院関係者との関係づくりを行っている。入院の際には必要な治療を安心して受けてもらいながら、早期退院に向けての相談をこまめに病院と取り合っている。また職員もお見舞いに行って元気付けたりしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人と話す事は難しい場合は、時期を見て家族とは今後についての話し合いをしている。その中で、ホームで出来る事と出来ない事、今後考えられる事等を伝え、共にその方のことを考えながら支援をしていく体制作りはしている。	看取りの態勢を整えているが、入居時に利用者や家族から看取りの要望があり、家族の理解と協力が得られた場合に支援を行う旨を説明している。現在まで、看取り支援は行われていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルもあり振り返りをしたり、対応についての話をしながら実践力を見に付けている。また、定期的に勉強会も行って意識付けしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防立会いの訓練を行っている。また、毎月自主訓練を行なっている。今回、停電災害もあった事で、全職員が災害時の対応を身につけている。地域の協力体勢も出来ている。	消防署や防災コンサルタント、地域住民の協力を得て、日中・夜間想定の避難訓練を実施している。昨年9月の震災では、住民や家族、職員の協力を得て乗り切った経緯があり、新たに備蓄品の充実や災害時の対応を再確認している。	火災や地震想定の避難訓練を自主的に行っているが、雪害想定訓練は行っていないので、ライフラインの対策も含め、今後の課題としており、その実行に期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	耳の遠い方への声かけが他者に聞こえてしまう事もあるが、誇りやプライバシーを損ねる事がないよう、言葉掛けに気を付けながら対応している。	排泄時はさり気なく誘導し、入浴時は可能な限り同性介助の要望を取り入れるなど、尊厳に配慮した接遇に努めている。個人関連の書類の記入時や保管も適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で本人の思いや希望を訊きながら自己決定出来るように選択肢を出したり、見て決められるような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り一人ひとりのペースを大切にしている。読書をされたり居室でテレビを観たり、静養されたりと希望に沿った支援を行ないながら日々の暮らしを送っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には髪の毛をとかし身だしなみを整えたり、外出時等お化粧の支援をしている。行事でメイクを楽しんでもらう等おしゃれの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器拭き、調理等できる事のお手伝いをしてもらっている。目で匂いでも楽しめるような食事の提供を心掛けている。	利用者に何が食べたいのかを聞き、法人本部から届く主要食材や、近所で買い物した食材、菜園での野菜を活用して献立を立案している。出来る範囲の食事作業を利用者に担って頂き、会話を交えながら共に食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録している。食事量が少ない時には好まれるお菓子等を提供したり、水分量が不足している方には好まれる飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや働きかけを行っている。本人の能力により介助も行い口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用しながら誘導を行ない、トイレでの排泄を促している。パット汚染無くトイレで排泄されることが多くなった方もいる。また、自立していた方に失禁が見られるようになった時には、トイレへの声掛けをし失禁防止に努めている。	自立排泄や本人の要望によりポータブルトイレの使用、必要な場合のみ排泄チェックを行い時間誘導するなど、一人ひとりに合わせたトイレでの排泄支援に取り組んでいる。職員の支援により、布下着の着用が可能になった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう食事や水分提供を行っているが、便秘されている方にはそれぞれに合わせ乳製品の提供等を行いながら予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限りほぼ毎日、午前・午後と入浴の時間を持っている。拒否が見られた時には無理強いせず翌日に入ってもらう等、一人ひとりのタイミングや気持ちに合わせた支援を行なっている。	毎日入浴出来る態勢にあるが、週2回以上の入浴を基本としている。利用者の状況によっては、足浴や清拭で済ますこともあるが、要望でホテルの温泉に同行するなど、利用者が入浴を楽しめる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の様子を観ながら静養の促しを行なっている。また、安心して気持ちよく眠れるよう室温に気を付けたり寝具交換を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の大切さや薬の目的、副作用等の把握を行いながら服薬支援を行なっている。薬変更時には、症状の変化がないか確認に努めている。1年間のテーマとしても掲げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	小さな事でも出来る事は行なってもらい、張り合いや喜びとなるよう働き掛けをしている。楽しみや気分転換として外出行事を行なったりしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限りの対応を行なっている。ホーム玄関前での日光浴や畑までの散歩をしたり、思い出の場所を伺い定山渓や厚田等へ外出行事として出掛けている。家族やボランティアの協力や参加もある。	利用者は菜園での作業に精を出し、採れたサツマイモをふかして食べるなど、楽しみ事になっている。見守り支援のボランティアや家族の参加を得て、大滝村の「きのこ王国」で、きのこ汁を堪能するなど、個別外出も取り入れながら多様な外出行事を企画し、五感刺激に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解しているが、お金を所持されている方は殆ど居ない。欲しい物があれば購入してきたり、可能であれば一緒に買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方は自分で連絡を取られている。他、希望があれば電話をかけたりと対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は居心地良く過ごせるように配慮している。季節ごとに壁の飾り付けを変えたり、季節の歌を書き出したりと工夫をしている。人の出入りが多くなると混乱される方はいるが、職員が声掛けをしながら落ち着けるよう対応している。	職員は、生活空間が利用者にとって快適な環境になるよう、採光や温湿度、音の調整、清掃に配慮している。季節に合わせた飾り付けや行事での写真、習字や塗り絵など利用者の作品を飾っており、憩いの場所としての雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを置き、気の合った方と過ごせるようにしたりしている。共有空間で独りになる事はあまりないが、個々のペースで思い思いに過ごせるように対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には可能な限り自宅で使用していた物を持ち込んでもらっている。また、本人の身体状況の変化に合わせながら、居心地良く過ごせるよう空間作り等の工夫している。	8畳程ある居室には、調度品や仏壇、趣味のものなど、使い慣れた物や大切な物を持ち込み、自分の部屋としての存在感がある。温湿度計が備えられ、生活環境にも配慮ある支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置している。歩行器や車椅子等を使用しながら、自分で出来る事をしている。分かりやすく張り紙をしたりしながら自立した生活を送れるよう工夫している。		